

市長記者会見記録

日時：2025年3月21日（金）14時00分～14時24分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入りますが、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いします。

《社会福祉法人母子育成会への監査等に係る検証報告等について》

【NHK（幹事社）】 NHKです。本日はよろしくお願いいたします。

【市長】 お願いします。

【NHK（幹事社）】 では、幹事社として1点お伺いさせてください。先日、母子育成会に関する検証報告がまとまって、端的に言えば、市の事務方の皆さんのガイドラインの読み方に不備があったために長年放置されたという結論だったかと思いますが、改めてこの報告書提出を受けて、市長としての所感を教えてください。

【市長】 まず、過去に実施した法人監査について、もっと踏み込んでやるべきであったという内容を中心に、組織内の情報共有ですとか、あるいは連携など、多岐にわたって課題があったという内容でございました。こういった御指摘を真摯に受け止めて、もう既に改善しているものもありますが、しっかり徹底して改善して、法人監査に当たっていきたいと思っております。

【NHK（幹事社）】 ひとまず、私からは以上です。

【読売（幹事社）】 読売新聞です。

同じテーマの質問で恐縮なんですけれども、1点お教えいただければと思います。議会答弁で第三者委員会も含めた検討という発言があったかと思うんですけれども、その辺り、お考えに進展といいますか、第三者委員会での調査ですとか、そういうところのお考えに変わりはないか、教えていただければと思います。

【市長】 それは、立ち上げる段階でも意見としていただいたところではありますけれども、スピーディーに対応していく必要があるということと、それと公正性をどうやって担保していくか、客観性というものを担保していくかということで始まって、外部の有識者を入れた中で、しっかりと検証ができたものだと思っております。

【読売（幹事社）】 今後、この問題に対して、改めて第三者委員会でまた調べるということは、今のところまだないと、そのお考えに変わりはないというところでよろしいでしょうか。

【市長】　そうですね。3つのポイントで今回検証を行いますということを申し上げて、その3つのポイントについてはしっかり検証ができたと思っております。

《全国都市緑化かわさきフェアについて》

【読売（幹事社）】　ありがとうございます。

では、もう一点、緑化フェアの見どころを、改めて市長からPRいただけますでしょうか。

【市長】　ありがとうございます。まず、今回、春の開催ということでありますので、秋よりも色鮮やかな花ということが中心になってまいります。富士見公園のメインガーデンでは6万株ということで、前回の約2倍だったと記憶しているんですけども、2倍のお花が皆様をお迎えするというのと、それから、なるべく次、今回のフェアのレガシーであります、自分たちのライフスタイルに取り入れていくということにヒントになるような体験、体感型の取組を今回行ってまいります。

それから、緑化フェアのもう一つの目的でありました最新技術を取り入れるということもございまして、「動くみどり」といったものも最新技術として取り組んでいきます。東京大学に加えて住友林業、あるいは自動車のスズキ、こういった方たちとの連携によりまして「動くみどり」を演出するということで、可変みどり空間という形でのものも行っていますし、あるいはもっと楽しんでいただくということで、ゲームとコラボするということで、ピクミンブルームとのコラボということでやっています。これは、アプリで導入している方、結構いらっしゃるくて、こういう形で川崎の緑化フェアを楽しんでいただきたいなと思っております。

それから、ちょうど市役所広場も同日に、明日、まち開きというか——何ていいますか、こういうの——開きますので、それとしっかりとつながったみどりというのも体感していただければなと思っております。

様々な、関わって、好きになるということを言っていましたので、等々力だけではなくて、いろんなところで市民の皆さんが発表していただくようなステージなどもたくさん用意しておりますので、ぜひ楽しんでいただければなと思っております。

【読売（幹事社）】　ありがとうございました。

幹事社からは以上ですので、各社さん、お願いいたします。

《学校のプールについて》

【産経】　産経新聞です。よろしくお願いします。

ちょっと前の話で恐縮なんですけれども、大島小学校のプールの水流出の関係で、プールの水をいつ抜いたかの記録がなくて、いつ入れ始めたかの記録もなくて、本来、水を抜くときには消防署に連絡しなければいけないのに連絡をしていなかったということなんですけれども、そのことについての市長の受け止めをお願いします。

【市長】　ちょっと待ってください。少し記憶をたどらなければなりませんけれども、まず現時点では、プールの指導というのは、しっかりとした管理マニュアルに基づいてやっているということなので、そこを徹底していただきたいということはもちろんのことでありま

すけれども、引き続いてしっかりチェックしていただきたいと思っております。

【産経】 消防水利としての管理のところに問題があったのではないかという意味でお伺いしたんですけれども。要は、学校のプールの水を抜くときには、ちゃんと消防署に連絡しなければいけないと。今回、何日間プールの水がなかったのかも分からないし、その間に、もし周辺で火事があった場合、とんでもないことになっていた可能性があるということ踏まえて、特に来年度の予算なんかを見ると、防災減災について川崎市は力を入れると言っているときに、こういうことが起きているんですけれども、そのことについての市長の受け止めをお願いします。

【市長】 すみません。そういう意味では、繰り返しの話になってしまうかもしれませんが、今、自分のところが担っている役割は何なのかということをしかりと踏まえた適切な対応を取ってもらいたいと思っております。

【産経】 その関連で、新小倉小学校なんですけれども、プールがないということで、巨大マンションの隣にある小学校で、これまでだったら、あるところに消防水利がないということなんですけれども、それこそ災害時に避難所になって、今回２億何千万か、避難所のトイレの予算もつけているわけですね。そういうことも考えたときに、あそこにプールがないということは、何らかの形でその分をフォローする考えがあるのかないのかを教えてください。

【市長】 基本的には、バックアップ的な機能ということだと思いますので、その周辺の消防活動に支障のないような形で整えていると認識しております。特に新小倉のところで、プールがないことによって消防活動に支障になるということではないと考えております。

【産経】 分かりました。どうもありがとうございます。

《多摩病院における事故等について》

【神奈川】 神奈川新聞です。

先日、議会で上がった多摩病院の話をお伺いしたいんですけれども、議会の質問で、市長がまず把握したのは報道だというお話がありましたけれども、あれ以降どういうふうな、現実的には、市長の耳に入っていないというのは、あまりにも稚拙というふうに受け止めたんですけれども、それ以降、報告の改善とか、その辺は何か進んだことはあるんでしょうか。それとも来年度以降はこうしていこうみたいな。多摩病院の認識としては、どういうふうに市長は受け止めていらっしゃるでしょうか。

【市長】 まず、２８日金曜日の報道だったと認識をしておりますけれども、翌月曜日の日に、たしか午前中の早い段階だと思いますが、病院局から報告を受けて、一体全体どうなっているという話から、多摩病院は報告に来たのかということから始まって、すぐと呼んで、まず病院長なり何なりから説明を受けるようにという話がありました。金曜日の夜から土日挟んで月曜日の朝ということでしたので、すぐその指示は出しました。

事実関係がうまくつかめ切れていないというところにも、病院局側にも問題があると思いましたので、とにかく話をしっかり整理してくれということで、運営上の分けというか、

直営なのか指定管理だとかということとはいえ、それは運営上の話であって、市立病院としては変わりなく、病院局としてどういうことになっているのかということについて、早急に報告するようにという指示をしました。それと、これは病院局だけの話ではなくて、医療法上の話とかも絡んでくるということなので、健康福祉局も絡むので、三田村副市長には、2つの局の連携がしっかりできるように、体制を整えるようにということを月曜日の日の朝、指示をしたところでございます。以降、何回かに分けて報告が入っておりますけれども、その日時とか、必要であれば後ほどおまとめさせていただきたいと思います。

課題はたくさんあると思っております、病院局としてのガバナンスの問題ということと言え、現時点でも対応はまずいと思っておりますので、そのところをしっかりと調整、まず事実関係を整理して、検証の上、早急に対応していきたいと思っております。

【神奈川】 先ほどの話じゃないですけど、母子育成会でも、誤認識があつて監査が踏み込めなかったとか、今回の多摩病院も、遺族の承認が必要だったという話から報告が遅れたり、国のほうにも報告しなかったりとか、何か「誤認識」という言葉でうやむやになっているとか、そういうふうに感じるんですけれども、改めて再度こういうマニュアルの見直しとか、市としての、そういうのを改めて徹底しましょうという、本当、多分最低レベルの話だとは思いますが、いよいよもう2025年度シーズンが始まりますので、その辺、何か市長からとか、副市長が分からないですけども、もう一回ちゃんと襟元を正しましょうじゃないですけど、そういう指示だったりとか、新しい1年に向けて、市長から何か示したこととかはありますか。

【市長】 まず、先ほども申し上げたように、これは病院局としてのガバナンスの問題が問われているわけです。ですから、直営と、これまでもちょっと違和感を感じたことは、ないことはありませんでした。直営と指定管理のところに、やはり人も含めてかなりお願いしている部分もありますし、直営と指定管理のところは若干違うことも十分承知しています。

ただ、そこは、しっかりやるべきことは、市立病院としてというのはありますから、そこをまず、今現状がどう、そして、どこかにまずい穴がないのかということ、この際しっかりと明らかにしていくということを指示したわけですが、そこをしっかりと把握した上で明確な指示を出していきたいと思っております。

【神奈川】 それこそ、何か全体としてというのはないですか。

【市長】 あまり抽象的なことを言っても響かないと思っております、どこに問題点があつて、臆測に基づいて言うてはいけませんけれども、指定管理ということによって何か支障があるのであれば、早急に運営面で改めなくちゃいけないことがあるのか、ないのかということも、しっかりと検証していきたいなと思っております。しっかりと具体的話を持ってやりたいと思っております。

【神奈川】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ、朝日新聞さん。

【朝日】 どうも、朝日新聞です。

今の関連で、神奈川県警に対しては異状死ということで、医師法に基づいて報告されているんですけども、その段階で川崎市病院局や市長のほうには、報告は上がっていないんでしょうか。

【市長】 私が報告を受けていることでありますけれども、病院局には死亡事故が発生したというのは、第一報を受けていると聞いています。私のところにはありません。

【朝日】 市立多摩病院が異状死として警察に届け出たということを、病院局には報告しているという理解でよろしいでしょうか。

【市長】 それは事務方でもよろしいでしょうか。

【朝日】 はい。

【市長】 お願いします。

【病院局】 病院局です。発生した翌日には、多摩病院から一報が、こういった事案があったということ、それから、病院の中で確認した結果、警察には異状死として届け出たという情報は入ってきておりました。ただ、その後の状況ですとか、正式な院内での検証結果の報告書というのが、本来であれば提出されなければいけないところ、提出がされていなかったというのが実態でございます。

以上でございます。

【朝日】 要するに、薬が誤って投与されているので、本来ならば、その後に薬の投与ミスがありましたという報告があつてしかるべきという御趣旨の発言でしょうか。

【病院局】 指定管理者制度でやっけていまして、指定管理者と、市と多摩病院は、聖マリアンナ医科大学との協定書の中で、そういった事案が発生した場合には、市に対して報告しなければならないという規定がありまして、そういった事案、今回のような事案が発生した場合には、本来であれば正式な報告書、一報が入った後で正式に検証した報告書も提出されるべきところ、提出がなかったという状況でございます。

【朝日】 どうして提出しなかったという話は聞いていますか。理由については。

【病院局】 それは今、経過を確認中でございます。

《社会福祉法人母子育成会への監査等に係る検証報告等について》

【朝日】 ありがとうございます。

話題変えまして、お願いなんですけれども、母子育成会で土地の無償提供の点も検証報告書に上がっていきまして、それについて、今後整理するという書きぶりだったと思うんですけども、整理されましたら、報道機関にも情報提供していただけるようお願いいたします。

【市長】 それは、社会福祉法人への土地無償貸付けの……。

【朝日】 の話です。

【市長】 整理していくということについてですね。

【朝日】 はい。

【市長】 分かりました。

【朝日】 ただ、整理するものなかなか、今貸してある無償貸付けのところ、じゃ有償に

しますよというのも、向こう側にとってみると急に負担が増えるわけで、なかなか大変だと思いますけれども、その辺りはどのぐらいの時間的あれで方向性を出そうかなと思っていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 今確認しているのは、次年度には何とか整理をしたいという話は担当局から聞いています。

【朝日】 基本的に有償化する方向と考えておいてよろしいのでしょうか。

【市長】 そのことも含めて、いろんな経営上の影響は出てくるでしょうし、今御懸念いただいたようにですね。かつ、無償貸付けを受けているところと受けていないところの公平性というものをどういうふうに考えていくのか、しっかりバランスを取っていかなくちゃいけないというか、公平性については、しっかり、皆さんに対して公平でなければならないんですけど、その経緯も含めて、相当古い話を掘り起こしていくことになるので、なかなか骨が折れる話になるなということは、今の段階からも当然予測できることだなと思っています。

【朝日】 分かりました。ありがとうございます。

《川崎大空襲記録展等について》

【共同】 共同通信です。

話題変わりました、先日、平和館のほうで川崎の空襲展がオープンされましたけれども、改めて戦後80年に当たって、川崎空襲に対して市長の思いがあればお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 やはり川崎大空襲で、この市役所辺り、周辺も焼け野原になって現在に至っていることを考えますと、改めて、川崎市民にとっても戦争は非常に身近なものであったし、ゆえに、平和の尊さだとかをしっかりと若い世代も含めて学んでいかなくちゃいけないと思っています。この節目の年をしっかりと、戦後生まれが9割という時代になりましたので、私を含め、戦争から学び、そして平和の大切さを知るようなきっかけにしていきたいと思っています。

この前も市民の集いを行いましたけれども、若い人たちに参加いただきました。特に、こういうことってすごく大切だなと思っているんですけども、今回、写真もカラー化されるということで、どうも白黒写真を見ていると、何かすごい遠い、現実離れたものとして見ちゃうんですけど、カラー化されると本当に、何となくリアリティーを持って迫ってくるものがあるので、それはこの前の中学生を対象とした集いでもみんな明らかになって、言っていましたけど、そういった機会をより多くの人たちに見ていただきたいなと思っております。

【共同】 確認ですけれども、今のお話は、カラー化された写真が平和展の、空襲展でも展示されているということを踏まえてという。

【市長】 そうですね、ごめんなさい。

【共同】 そちらも見てもらいたいという。

【市長】　そうです。

【共同】　ありがとうございます。

《川崎アゼリアにおける警告ブロックの設置について》

【東京】　東京新聞です。

今日の夜からアゼリアの地下駐車場への階段に警告ブロックが設置されるということで、当事者団体の方などからは、視覚障害のある方が、警告ブロックがないがゆえに階段を転落してけがをされたこともあったというお話もあったので、まずは地下駐車場への階段からというところだと思えるのですが、このアゼリアへの点字ブロックの設置について、市長の御見解をお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】　過去、今年だけでなく、複数年にわたってそういった御要望を受けてきて、アゼリアの土地ということもあって、なかなか経営上の問題等といういろんな課題がありましたけれども、そういった市民の皆さんからのお声ですとか、議会からのお声ということを受けて、市としても一歩踏み出す形で整備が進むことになったことはよかったと思っております。複数年度かかっていくことになりますけれども、一刻も早く安全安心に歩いていただけるような、そういう環境を整えていきたいと思っております。

【東京】　ありがとうございます。

【司会】　質問、ほかによろしいでしょうか。

では、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】　ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当